

2021年度 NCV 函館センター放送番組審議会

■2022年2月10日実施

■番組審議委員

井ヶ田嗣治(株式会社丸山園茶舗社長)

岡本啓吾(函館コミュニティプラザ G スクエアセンター長)

木村健一(公立はこだて未来大学システム情報科学部 学科長・教授)

笹井完一(函館あうん堂)

菅原和博(函館市民映画館 シネマアイリス代表)

富成雅子(学童保育支援員)

中林尚子(函館市亀田交流プラザ館長)

楢館茉奈(フリーランス講師)

庭田徹(五稜郭タワー 渉外部長)

丸藤競(函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

五十音順

■審議番組

「栄冠はおじさんに輝く」 2022年1月放送

■番組概要

甲子園出場 春夏通算13回を誇る、北海道の古豪 函大有斗高校硬式野球部。
その歴史の中には、甲子園出場を賭けた全道大会の決勝で敗退し、悔し涙を呑んだ年代や、甲子園への切符を手にしながらも、不祥事で出場を辞退した年代もありました。
夢半ばで高校野球に別れを告げた選手や、再び思い出の甲子園を目指す選手。
そんな熱い思いを持った幅広い世代のOBが集まってチームを作り、2021年12月「マスターズ甲子園」大会に出場を果たしました。

番組ではOBチームの結成から北海道予選優勝までの道のりや、出場を辞退した過去の歴史と当時の選手たちの想いを振り返り、夢の大舞台甲子園で輝く「おじさん」たちの軌跡をご紹介します。



■番組の感想

【委員】

「栄冠はおじさんに輝く」の放送番組を感動しながら観ておりました。
夢をかなえる努力、記憶から消してしまいたい悲しい出来事を消化したとは思えませんが、明るい笑顔。監督からのメッセージは心にしみるものがありました。
函館で生まれ育ち、当地、函館で暮らしている者として、時の流れを表現していただいた番組と言えます。

【委員】

一言で言うと、とても面白い番組でした。あまりスポットライトの当たらない、身近にいる地元の人が主役になっている、ドキュメンタリーで親近感もわかりますし、ドラマもあるし、とても見ごたえがありました。
現役世代に向けたメッセージという観点からも編集などでしっかり本質も伝えつつ、過度なプレッシャーにならない配慮もあり、和気あいあいとした雰囲気が見ていて心地良かったです。
インタビュアーやレポーターの方が、しっかりとストーリーを持って取材をして、信頼関係を築いた上で出来た番組であると見ていて感じました。

【委員】

ストーリー、出演者を含めたヒストリー共に良かったと思います。当番組で「マスターズ甲子園大会」を初めて知る事が出来ました。
様々な事情で甲子園に出場出来なかった選手 OB 達が年代を、時を超えて一つの夢を叶える大会の趣旨は素晴らしいと感じました。
また、時は違えども同じ場所で、同じ思いで甲子園を目指した OB 達が楽しみながらも共に練習し、チームが出来上がる様子も感動的でした。

【委員】

地域に根ざしたメディアとしての持ち味を十分に発揮した素晴らしい番組だと感じました。
中央のメディアでは取り上げることが極めて稀だが、地域の人々にとって大事な話題を丁寧に取材している姿勢に敬意を表したい。
出演者が皆リラックスして、自然体で話す姿を通じて、取材者との信頼関係がしっかりと築かれる事に特に好感を持った。カメラがとにかく出演者に近い。
甲子園での練習風景、試合の際にも観客目線ではなく、チームの一員のような場所からの撮影映像が多用されているため、自分事のような臨場感を楽しめました。
ちょっとコミカルな「行進の練習風景」や「甲子園の土を身体になすりつける選手の様子」等々が、50分という長尺の合間に挟まれている事で、最後まで、退屈さを感じる事無く見るきっかけになっていました。
甲子園辞退のような重い内容も取り上げていますが、事実を受け止めて人生を謳歌している様子に救われるような気持ちになれました。

【委員】

とても興味深く拝見しました。

まずマスターズ甲子園という存在を今回初めて知りました。

甲子園に思いを残した者たちが、全国からそれぞれの人生の荷物を置いて、少年の自分と出会う場所。素敵な企画があるんですね。

そして有斗高校野球部の歴史。栄光と挫折。それは函館の高校野球界の歴史の一つでもある。

有斗高校野球部監督の上野さんは、函館スポーツ界のレジェンドの一人だろう。貴重な話だった。

おじさんたちの顔がいい。高校野球時代の話をする時の表情。まさに輝いている。

そして、夢に見た甲子園球場。高校名の入ったユニフォームを着たおじさんたちの姿は

映画「フィールド・オブ・ドリームス」から抜け出てきたようだ。

コロナ禍の中で見つけた月見草のような番組でした。

【委員】

高校野球・・・大好きです。

有斗高校が強かった頃を私もリアルタイムで経験していますので、この不出場についても記憶は

あります。当時の高校生たち、球児たちはどんなにショックだったことか・・・想像を絶します。

この番組の素となる「試合の番組」も全部見ました。回を追う毎に、ベルトの上のたっぷりのお腹が、重ねてきた年月を感じましたが、どの年代も、「野球、大好きだ～！」と心から叫んでいるのが聞こえて来そうでした。

「不祥事などで出場出来なかった高校OB」と言うふうに認識されると残念なので、マスターズ甲子園について、もう少し詳しく説明が欲しかった。

【委員】

私は、野球にあまり詳しくないので、高校野球もあまり見ないのですが、有斗高校の野球部の密着は、身近に感じてとても興味深かったです。

過去の出場辞退については、知りませんでした。

不遇の高校時代を送った球児が、甲子園の地を踏むことができたことに、とても感動しました。

マスターズ甲子園という企画も粋な企画ですが、有斗高校OBがその大会で勝ち進み、

甲子園出場を果たしたことは、もっと知られていてもいいのにと思いました。

「栄冠はおじさんに輝く」というネーミングはいいですね。

もっと多くの方に見てもらいたいと思いました。

【委員】

スポーツ(野球)ドキュメンタリー番組として楽しんで視聴させていただきました。

母校有斗高校で野球に携わった人々の「甲子園」に対する熱い思いが伝わってきました。

また、OBの「奥尻の星」佐藤義則さんや鹿部町出身で45歳で亡くなられた盛田幸妃さんが出場でき、またまた感動しておりました。

【委員】

内容の理解が促されるような、聞き取りやすいアナウンスだった。

普段光が当たりにくい”おじさん”世代の方々が、こうしてスポットを当てられ、熱く語る姿はこちらもぐっとくるものがあった。マスターズ甲子園を今まで知らなかったが、概要説明が丁寧にわかりやすくされていたため、番組内容に入り込むことができた。

”おじさん”たちが語る「甲子園は忘れ物」など、印象に残る言葉が多くあり、心動かされた。

24年越しの甲子園という方もおり、胸を打たれ見入ってしまった。

普段仕事を共にする上司に近い世代の方もおり、自身より年を重ねてこられた世代の皆さんが積み重ねてきたものに思いを馳せた。

北海道大会で縁のあった室蘭大谷を下したシーンでは、熱いものがこみ上げた。

ナレーションもゆっくりで大変聞き取りやすかった。

全員出場、全員野球。通常の甲子園ともまた異なる試合運びの難しさが画面から伝わってきた。

試合の場面では、自身も熱くなりながら観賞することができた。

音楽やナレーションも試合の妨げになることなくそれを引き立てており、”おじさん”たちの活躍を集中して拝見することができた。

何度も涙ぐむ場面があり、続編があってもおもしろいのではと思った。

これからも彼らの活動をぜひ記録して行ってほしいと思った。

マスターズ甲子園での試合中、自身のユニフォームに土をつける選手を見て、甲子園に懸ける熱い想いを感じるとともに、思わず笑ってしまった。

こういった緩急のある構成は飽きが来にくくなっているように思った。

【委員】

有斗高校 OB 関係者一人ひとりに丹念にインタビューし、長期的に取材し番組にできたのは、函館の放送局だからこそできたことだし、地元根付いた放送局に一番求められていることを実現できた番組だと感じました。

ちょうど私は函館を離れていた時期だったためか、不祥事による辞退のことは初めて知ったのですが、そこにしっかり目を向けていたことは良かったと思います。

「50分という放送時間が長いのでは」という意見を持つ方もいるかもしれませんが、私的には、例えばNHKならばカットするような情報も「丁寧に見せてくれることこそ」の良さなのではと感じます。

甲子園というところが、卒業して何十年経っても特別な存在で、そこを目指して部活動に励んだという過去があることが羨ましいと思いました。

そういうあたりを、ドラマチックになり過ぎずに伝えた点も良かったと思います。

■意見・改善点

【委員】

どうしても主要な登場人物に重きをおくのは番組構成上仕方が無いかと思いますが、視聴者に近い人たちが番組に出ているというローカルな観点から言うと、選手全員の名前がエンドクレジットなどで出ていればと感じました。

「栄冠はおじさんに輝く」というタイトルに引っ張られてか、ちょっと無理矢理に「おじさん」というワードを出しているのも少し気になりました。

コミカルにはなるので親近感を持つ要素ではありますが、グラウンドで目を輝かせている方々を見て「おじさん」という総称で呼ぶことにちょっとした違和感がありました。

「若いおじさん」等の言い回しも少し無理矢理な感じがします。

【委員】

番組の構成上、何人かの人物にスポットライトを当てる必要がある事を踏まえた上で、可能なかぎり多く、エンドロールに出演者や関係者の個人名を掲載すると良いのではと思いました。掲載上のルールをお持ちのはずですが、この番組の性格上、チームに関わりを持っている方々それぞれにドラマがあって、その一部を取り出した、というものだと思うからです。

【委員】

エンドロールの部分で、マスターズ甲子園事務局、OB会の連絡先等も明記されていれば番組に興味を持った視聴者にも優しくかったかと思います。

【委員】

限られた予算と日数の中で、とても丁寧に作られていると思いました。

強いてあげるなら、おじさん達の家族(奥さん、子ども、孫)の反応やコメントがあると、より深みが出た気がします。

走塁をするたびにユニフォームに甲子園の土をなすりつけていた、あのユニフォームのその後を見たかった。

番組時間 50 分はやや長く感じました。

この尺ならあと一つか二つエピソードがあるとよかったですね。

【委員】

50 分という時間は、途中飽きられる可能性もあります。

著作権の関係もあり難しいかもしれませんが、ドキュメンタリー番組は、印象的で感動的な音楽を使用して盛り上げたりしますので、もう少し音楽を取り入れれば良いと思いました。

感動的な音楽を挿入することで、グッと番組が良くなると思いました。

【委員】

マスターズ甲子園の詳しい説明が欲しい。テロップでも良いので。90分の試合時間で選手たち全員が参加できたのか？その詳細もわかったら、もっと興味をもって見てくれる方が増えたのでは？

【委員】

タイトルが表示され、番組が紹介される「前置き部分」が映像に変化がなく長く感じられた。内藤さんが一念発起して、マスターズ甲子園に参加しようとメンバーを集めた過程をより詳しく拝見したかった。

【委員】

有斗高校野球部全体をターゲットにする事は非常に難しいと思いましたが、しっかり50分にまとめてあり、さすがプロだと敬服いたします。最後に上野監督より今後の有斗高校野球部にエールがあると良かったと思いました。

【委員】

せっかく50人のおじさんが選手として参加したのですから、最後に50名の方の名前や年齢、何期生かといった情報が一覧になって流れると、OB感をもっと出たのではないかと思います。「2回の表 有斗高校が猛攻をみせます」というナレーションがあったが、あれはウラの攻撃だと思います。細かいことですが、チェックは必要かと思います。「現役とOBどちらが先に甲子園に行けるか」ということも話題になっていたのも、現役の有斗高校野球部の生徒さんの声や姿を交えても良かったのでは？

■番組制作に対する要望

【委員】

まだまだ、大切な物語は多くあると思いますので、企画制作は大変でしょうが、シリーズといいましょうか、函館ドキュメントを望みます。当地は、目立つ人と目立たない人とのギャップがありすぎる特殊な地域だと思いますので、難しい点も多いことも現実です。この点はNCVが結びの役目だと願っています。

【委員】

市内で活躍しているNPOの活動を紹介していくような番組を継続的に制作していただけると嬉しいです。団体の励みやスキルアップにもつながると思います。ささやかな地域課題に目を向け、地域の力で、函館ならではのアイデアや動きで解決していくような番組。NCVの番組が地域課題解決のハブになっていき、市内の他地域の課題解決にもつながっていくような手作り感のある番組、というイメージです。

【委員】

中々このようなドキュメンタリー番組を制作することは、予算や人員や諸々考えると難しいのかと思いますが、地域の「人」を取り上げる番組はとても貴重ですし、とても励みになると言うか明るくなる情報なので、定期的にこのような番組を制作して頂ければと感じました。

正月は忙しくて番組をタイムリーに見れなかったので何回か放送もしくは、YouTubeなどで見ることができ、その告知を SNS で発信すれば、もっと幅広い方にリーチできると感じました。改善点にエンドクレジットの件を書きましたが、誰か知っている人が出ているかもしれないと思うだけで、地元の視聴者は興味を持つと思うので、出来れば多くの人が出る今回のような番組が今後もあれば楽しいです。

【委員】

既に、多くの地域コミュニティにスポットライトを当てた素晴らしい番組を制作されていると感じております。

今後もこの取り組みを継続、発展していただくことを切に願います。

映像メディアの性質上、対象に動きのあるものが番組になりやすいのですが、あえて静的な文化に関わるコミュニティ(例えば、華道や茶道、もしくは「おかんアート」のようなものまで)を取り上げるのも面白いのでは、と思います。

【委員】

イベントの激減した近況の中大変ご苦労されていると思いますが、今後も地域に根差した街の情報や、市民の活動や団体の動向等々、幅広いジャンルでご紹介していただければ嬉しいです。

【委員】

今後も地域に根差した 15 分くらいのプチドキュメンタリーを作ってください。

プライベートで撮られた古い 8 ミリ映像の番組が好きです。 今後も発掘してください。

【委員】

以前、五稜郭公園の歴史や史跡を紹介する番組を拝見し、とても面白かったです。

既にあると思いますが、函館の歴史など、幅広い世代に興味を持ってもらえる番組制作を希望します。

ブラタモリなんかでも、結構些細なことを掘り下げて、歴史を紐解いているので、「函館市民も知らない函館の歴史」は見てみたいと思います。

亀田交流プラザでは、一般の方、児童、高齢者を対象にした講座、教室、イベントを毎月開催しています。 その活動の様子を取り上げていただきたいと思います。

【委員】

個人情報に配慮しながらも、応援のし甲斐のある「近所のオジサン」の存在を知りたい。

【委員】

次回作があったら、今回の番組でフォーカスされなかったメンバーひとりひとりについての内容も見たいと感じた。

続編があったら、若い世代の想いなどにも焦点を当てた内容のものを拝見してみたい。

【委員】

冬のスポーツを取り上げてみてはいかがでしょうか？

スキー、スノーボード、冬山トレッキング、アイスホッケー等(体験、レッスン、大会等)
